

一次の各問いに答えなさい。

問1 次の例のように与えられた漢字を使って、に漢字一字を入れ、同音異義の熟語を作りなさい。

例 はっしや || 発

(答え) 車・射

1 ひっし || 必

2 ぜっこう || 絶

3 れんめい || 連

4 きよう ||

用

5 えんげい ||

芸

6 そうぎよう ||

業

問2 次の三字熟語・四字熟語には、一字漢字のまちがいがある。その部分を正しい漢字に改めなさい。

例 努外視 (答え) 度

- 1 有頂点
- 4 不可決
- 7 心気一転

- 2 前後策
- 5 自休自足
- 8 連隊責任

- 3 最高長
- 6 二足三文

問 3 次の各文の——線部の外来語の意味に近い言葉を後から選び、漢字に改めなさい。

- | | | | |
|---|-------------|---|------------|
| 1 | 資料をコピーする。 | 2 | エチケットを守る。 |
| 3 | 友達にフオローを頼む。 | 4 | 生活のレベルが高い。 |
| 5 | 学校のルールを守ろう。 | | |

スイジュン・チュウイ・フクシャ・キソク・ホジョ・ヨウシキ・サホウ

問 4 次の各組のうち、正しい表現はどれか、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|--------------------|---|------------------------------|
| 1 | ア 下向きな態度 | 2 | ア 軒 <small>のき</small> の下の力持ち |
| | イ 胃に落ちない | | イ 失敗は発明の母 |
| | ウ 始末に負えない | | ウ 去る者は追わず |
| 3 | ア 乱気は損気 | 4 | ア 案ずるよりやるがやすし |
| | イ 損して得取れ | | イ 笑う人には福きたる |
| | ウ 骨折り損の銭失い | | ウ 寄らば大樹のもと |
| 5 | ア お客様にうかがっておきます。 | 6 | ア もう一度拝見なさいますか。 |
| | イ 先生から母に申し上げてください。 | | イ おば様にこの本をさしあげます。 |
| | ウ 父はこれになさるそうです。 | | ウ 母が先生に会いたいと申しています。 |

問5 次の各文の——線部が正しければ○、まちがっていれば正しく書き改めなさい。

1 「杯」のかなづかいは、「さかづき」と書く。

2 「空」の部首は、「うかんむり」である。

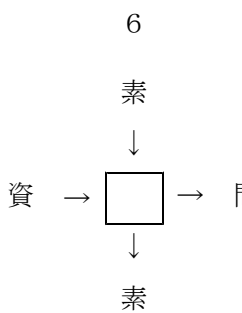
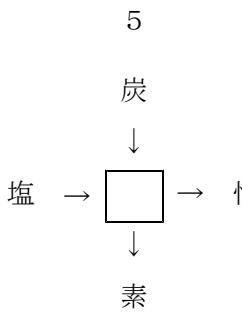
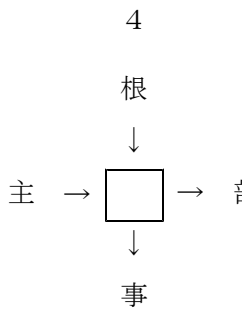
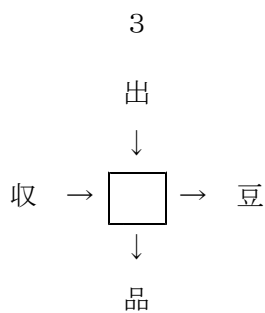
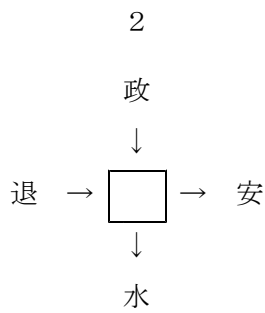
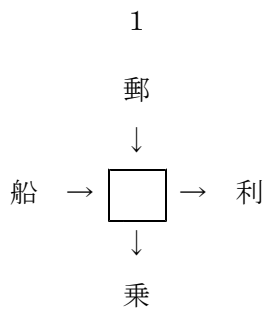
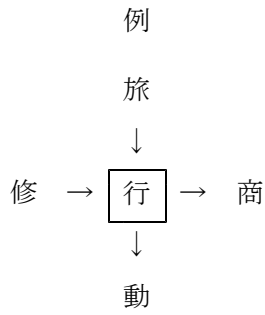
3 「隊」の総画数は、十二画である。

4 「かなしかつ(た)」の言い切りの形は「かなしみ」である。

5 「二トを追う者は一トをも得ず」の「ト」とは、「とり」のことである。

6 俳句、「ぼたん散ってうち重なりぬ二三片」(与謝蕪村よさきぶそん)の季節は、「夏」である。

問6 次の例のように□に漢字一字を入れ、二字の熟語を完成しなさい。



二 次の文章を読んであとの問いに答えなさい。(なお、省略した部分や出題上、一部改めた部分がある。)

神社の石段の下に着いたとき、巧たくみは少し汗あせばんでいた。

さすがだな、と思う。この石段をのぼり、くだり、今走った道を引きかえせば、かなり息がはずむだろう。たしかに、このランニングコースは、巧にはてごろな距離きょりだった。洋三は、それをさりげなく指示した。

① さすがだと思ったけど、くやくしくもあった。おまえの力はここまでと、決めつけられた気がした。いいさ、明日から少しづつ距離をのぼしていけばいい。じいちゃんが考えているほど、おれはガキじゃない。

変化球のことは、ある程度納得できた。身体ができあがっていないのもわかっている。だからといって、自分の力をみくびってほしくなかった。自分の中にあるものを、そう簡単に計られて決めつけられてはたまらない。息を整えて、石段を駆け上がる。

ア 境内は、思ったより広がった。石だたみがまっすぐに続いて、先に古びた社イがあった。大きな鈴すずがついている。その下の紅白のひもだけが新しく、やけに目立った。巧のほかにはだれもない。ウグイスの声が、近くで聞こえた。おどろくほど近かった。社の周りは雑木林ウで、ウグイスの声はやわらかくその林にこだました。

軽くピッチングのまねをする。本気で、ボールを投げたいな。胸の奥がじんとしびれるほど強くそう思った。自分のボールがミットにおさまる音が聞きたかった。

帰り道、巧は迷ってしまった。雑木林の中に細い道を見つけて、おりたのがまちがいだった。神社の裏に出ると思ったのに、道はいつまでもまがり続け、林からぬけ出られない。最初は、腹が立った。走ることに集中できなければ、ランニングの意味がない。迷った自分にも、わけのわからない山の道にもむしように腹が立った。頭の上を黒い大きな鳥が飛び去ったとき、初めて心がさわいだ。そいつは、ギャアというようなしゃがれた声を出して、林の中に消えたのだ。見あげると、空は紫むらさ色いろに変わっていた。

もしかして、マジで迷っちゃったのかな。

こわいとは感じなかった。それでも、急に強くなった風の冷たさが気になった。汗をかいた身体が冷えていく。雑

②木の枝がゆれてかわいた音をたてた。

木が、ぼくらをねらつとる。青波（巧の弟）なら、そんなことを言いそうな雰囲気だ。

足をとめ、ふりむいてみる。おりてきた道は、薄い闇の中に、はっきりとは見えなくなっていた。どっちみち、引きかえすのは性に合わない。足先に力をこめて走りだす。

走りだしてすぐに林はとぎれた。ぷつと切れた感じで目の前がひらける。田んぼが広がっていた。土をほりおこしたにおいがする。あぜ道が続き、巧の足元に小さなタンポポが咲いていた。

額の汗をぬぐう。今、自分がどこにいるのか、さっぱりわからなかった。

なんで、おれがこんなところで、おたおたしなくちやならないんだよ。

足元のタンポポをふみしめた。胸をはり、左足を大きく上げる。手首をそらしたまま、頭の後ろから右うでをふりおろす。

ストライク。ど真ん中。

ヒュッと口笛の音がした。夕闇の中に、少年がひとり立っていた。いや、ひとりではない。後ろに、もう三人少年がいた。しかし、いちばん前の少年は、目立った。大きいのだ。肩幅も身長も、巧よりずっと大きい。しかも、この時期、半そでのTシャツにジーンズというかっこうだ。少年たちは、みんな釣り道具を肩にかけていた。

「ナイスピッチング」

半そでの少年が、また口笛をふく。よくひびく高い音だ。中学校の野球部。なんとなくそんな感じがした。

「釣りしてたらや、急に神社の山から人がおりてきたけん、見よつたんじゃ。びっくりした？」

あごのはった四角い顔が笑っている。身体に似合わず、丸いかわいい目をしていた。

「べつに、びっくりはしてないけど」

巧は、少年の釣り道具に目をやった。

「こんなとこで釣り、できるわけ？」

田んぼと雑木の中、どこで魚が釣れるのかふしぎだった。

細い道にそって、歩く。五、六本の雑木のかげに小さな池があった。深いのだろう。こい緑色をしている。

「帰ろうや、豪ごうちゃん。あんまりおそうまで、池のそばで遊びよつたら、おこられるんじや。なあ帰ろう」
 少年のひとりが、甘あまえた声で言う。こういうべつたりした言いかたは、きらいだ。イライラしてくる。しかし、豪は笑ってうなずいた。

「そうじゃな。帰ろう」

それから、巧のほうをふりむいた。

③「今度、いっしよに釣りやるか？」

えらく、なれなれしいやつだと思う。ポケットに両手をつつこんだまま首を横にふつた。

「あんまり興味ないから」

「興味あるの野球だけか」

少しおどろいた。なんだって？——そう聞きかえそうとしたとき、豪は、今来た道を引きかえし始めた。横にならんで、巧も歩きだす。

「原田巧じやろ。ホワイトタイガースの」

思わず足がとまった。歩けよというふうに、豪があごを（A）。

「おれ、そんなに有名人なわけ」

「まあね。じつは、おれたちのチームも去年、県大会までは行ったんじや。二回戦で負けたけど。監督かんとくに、すごいピッチャーがおるけん、見て帰れて言われてな。準々決勝見たし、次の日の準決勝、決勝戦もじっくり見物させてもらうた」足がまた、とまりそうになる。

④ 去年、県大会に行ったということは、この少年も小学生だったということになる。ちよつと信じられなかった。言葉にして、それを確かめようとしたとき、豪が短い笑い声をたてた。

「追っかけもやったぜ」

「追っかけ？」

「うん。監督から、原田というピッチャーは、井岡のじいさんの孫だって聞いたけんな、じいさんが広島に行くとき、いっしよについて行って中国大会の試合、見せてもらうた」

⑤ 巧は、肩をすくめた。わずかにしずんだ球。空振り。しりもち。頭が痛くなるほど見続けたビデオのシーンがうかぶ。

「去年、県大会に出たって言ったよな」

「うん。新田スターズっての。ここらへんじゃ、まあ強いで」

「じゃあさ、やっぱり今年、中学生になるわけ？」

「あたりまえじゃ。小学校はちゃんと卒業したで」

この身体で、中一かよ。

巧も同級生の中では、かなり大きかった。しかし、目の前の少年にはかなわない。身体の大きさというより、身体全体の線が、がちつと太いのだ。

キヤッチャーだな。そう思った。それ以外のポジションは考えれなかった。

「後ろ、のるか？ 足かけるとこあるで」

豪が、自転車にまたがった。青のマウンテンバイク。

「いや、いいよ。走るから」

「じゃ、とちゅうまでいっしょに行こうや」

巧は返事をしなかった。だまって、走りだす。その横に豪の自転車がならんだ。

「名前は？」

短く聞いてみる。

「えっ」

「豪ちゃんは、わかったから、その上。名字」

「あつ、そうか。永倉。永倉豪ってんだ。家、わりに近いよ。歩いて十分ぐらいじゃな。それに、うちの母さんとな、原田んちの母さん、同級生なんじゃと。井岡のじいさんとこにマキコが帰ってくるなんて喜んでったな。旧姓が石岡っていうんじゃ。石岡節子。聞いてみなよ。」

関係ないだろ。そう言おうとして、巧は顔を上げた。目が合う。豪の視線が巧の頭から足までをすつと（B）。

「速いな。ランニング、いつもそのペース？」

「まあな。べつに、豪ちゃんの自転車に合わせてるわけじゃない」
「だろうな」

橋をわたる。ライトをつけた車が何台もそばを通り過ぎた。

「原田の球って、のびるんじゃない？」

「打者の手元でか」

「そう、遠くから見ただけじゃけど、ベースの近くにきても、球の速さ落ちてないよな」

「あたりまえだろ」

「あの球が低めにくると、かなりのバッターでもつまるんじゃない？」

「むりに打ちにいけば、つまるだろうな」

「打ちにいかなければ？」

「三振」

豪が、真顔でうなづく。おとなびた、きつい顔をしていた。薄闇の中でも、よくわかった。こういう顔をして試合には出るのかと思った。

⑥ ふつと、言葉が口をついた。

「投げてやろうか」

「えっ？」

「キャッチャーなんだろう。おれの球、受けてみる？」

自転車のブレーキの音。巧もとまる。

「ほんまに、投げてくれるんか」

⑦ 「いいよ。おれもピッチングの練習になるし。ただし、ちゃんとおれの球を受けれたらの話だけ」

豪が大きく口をあけて、笑う。笑うと急に、子どもっぽい丸い顔になった。

(あさのあっこ「バッテリー」より)

問 1 〓〓線部アゝカの読みをひらがなで答えなさい。

問 2 〰〰〰線部「考えれなかった」は、本来まちがった表現とされる。正しく書き改めなさい。また、本文中には、もう一ヶ所同じまちがいがみられる。〰〰〰線部以降の部分から、抜き出し答えなさい。

問 3 () A・Bに入る適当な語句を次の中から選び、記号で答えなさい。

A ア ひく

B ア なじんだ

イ なでる

イ なえた

ウ しやくる

ウ なびいた

エ だす

エ なでた

問 4 〓線部①について、

I 「巧」は、なぜ「さすがだ」と思ったのか。「……が……だったから。」という形で答えなさい。

II また、どうして「くやしい」とも思ったのか。文章中の言葉を使って三十五字以内で答えなさい。
(句読点含む。)

問 5 〓線部②について、この時の「巧」の気持ちを答えなさい。

問 6 〓線部③について、「巧」は、「豪ちゃん」の言葉を聞いて、「なれなれしいやつだ」と思ったとあるが、「豪ちゃん」は、そのときどんな気持ちからそう思ったのか。次の中から適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 友達や年下からいつも甘えられているので、初対面の人に対してもついなれなれしくなってしまう。

イ 「巧」の正体がわかっていたので、親しみがあらわれてついなれなれしくなってしまった。

ウ 友達や年下をいつもあごで使ったりしているので、初対面の人に対してもついなれなれしくなってしまった。

エ 大きな身体なので態度も大きくなり、初対面の人に対してもついなれなれしくなってしまった。

問 7 ——— 線部④について、何が「信じられなかった」のか、説明しなさい。

問 8 ——— 線部⑤について、「巧」が「肩をすくめた」のはなぜか。次の（ ）に適切な言葉を入れ、文を完成させなさい。ただし、どちらも五字以上七字以内とする。

思うようにいかなかった（ア）を豪に（イ）から。

問 9 ——— 線部⑥について、

I 「言葉が口をついた」とは、どういう意味か。次の中から適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア はき出すように言った

イ その気もないが言ってみた

ウ とっさに言った

エ とってつけたように言った

II また、どうして「巧」は、「投げてやろうか」と言ったのか、次の中から適当なものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「豪」はキャッチャーのようなので、どれくらい技術があるか試してやろうと思ったから。
 イ ピッチングの話に真剣になる「豪」の顔つきに、感じるものがあつたから。
 ウ 自分の自信のある投球を「豪」にみせつけてやりたいと思ったから。
 エ 将来、「豪」とバッテリーを組むことになっていたから。
 オ 初対面の自分に、快く話しかけてくれたお礼に、「豪」の喜ぶことをしてやろうと思ったから。
 カ 「豪」を相手に本気でボールを投げ、ミットにおさまる音を聞きたかつたから。

問 10

——線部⑦について、このときの「笑い」はどのような意味の笑いか。次の中から適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 大投手からキャッチャーとして認められたうれしさからくる笑い。
 イ ランニング中に突然「投球する」といいたしたことに驚き、返答に困った笑い。
 ウ あこがれていたピッチャーの球を受けることができるのだという喜びの笑い。
 エ 「巧」の球ぐらいたいしたことはないという自信に満ちた笑い。

受験番号	氏名	採点
------	----	----

問1	1	2	問2	1	2	問3	1	2	問4	1	2	問5	1	2	問6	1	2	問7	1	2	問8	1	2	問9	1	2	問10	1	2
	3	4		5	6		7	8		3	4		5	6		3	4		5	6		3	4		5	6			

問1	ア	イ	エ	問2	書き改め	抜き出し	問3	A	B	問4	I	II	問5			問6			問7			問8	ア	イ	II	問9	I	II	問10		
----	---	---	---	----	------	------	----	---	---	----	---	----	----	--	--	----	--	--	----	--	--	----	---	---	----	----	---	----	-----	--	--

受験番号	氏名	採点
------	----	----

問1	1	死	至	2	好	交
問2	1	天	善	3	潮	欠
	2	6	東	7	機	8
問3	1	複写	作法	3	補助	4
	2	ウ	3	ウ	5	6
問4	1	ウ	イ	4	ウ	ア
	2	ウ	イ	4	ウ	ア
問5	1	さかずき	あなかんむり	3	○	○
	4	かなしい	うざぎ	6	○	○
問6	1	便	治	3	納	
	4	幹	酸	6	質	

問1	ア	けいだい	イ	やしろ	ウ	ぞうきはやし
問2	書き改め	考えられなかった	抜き出し	受けれたら		
	エ	しょう	オ	ひたい	カ	みょうじ
問3	A	ウ	B	エ		
	問4	I	洋三がさりげなく指示したランニクス(が)巧にはてごるな距離(だったから)。	II	洋三に、自分の力を決めつけられたように、	
問5	問6	イ	林の中で迷ってしまったことに、不安な気持ち。			
	問7	身体が大ききこの少年が、去年まだ小学生だったということ。				
問8	ア	中国大会の試合	イ	見られていた		
	問9	I	ウ			
問10	II	イ	カ			
	ウ					

